

平成30年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

平成 31年 3月 26日

報告者	学科名	保健福祉学科	職名	准教授	氏名	周防美智子
研究課題	岡山県放課後児童クラブにおける支援プログラムの構築					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	周防美智子	保健福祉学科・准教授	子ども家庭福祉	調査・分析・冊子作成	
	分担者	中典子	中国学院大学	保育学	調査・分析協力	
研究実績の概要	<p>1. 研究目的</p> <p>近年、共働き家庭やひとり親家庭の増加により、小学生の放課後支援のニーズが高まっている。平成9年の児童福祉法の改正では、小学校に就学している児童に対して、その健全育成を目的とする放課後児童クラブが法定化された。現在、放課後児童クラブは、学校が抱える課題と同様に、児童虐待や貧困などの家族関係の課題や発達課題等を抱える児童も増加傾向にあり、対応や改善に向けた支援が必要とされ、放課後児童クラブの役割や機能に変革が求められている。しかし放課後児童クラブの支援員の資格や経験は、様々であり、児童への対応スキルや専門性に課題がみられるといわれている。岡山県においても360か所で放課後児童クラブが運営されているが、支援の内容や課題は明らかにされていない。そこで、本研究では、放課後児童クラブの実態を明らかにし、活動内容の検討を行う。研究は、放課後児童クラブの児童支援員の向上を図るだけでなく、文科省が提唱するチーム学校を支える地域組織の構築に役立つものと確信する。</p>					

※ 次ページに続く

研究実績
の概要

2. 研究方法

2018年9月～2018年11月までの間に、岡山県下における放課後児童クラブ7カ所に所属する支援員13人に対して、子ども支援や子育て支援（親支援）の状況について半構造的インタビューを行った。（本研究は、岡山県立大学倫理委員会の承認を得て行っている。）

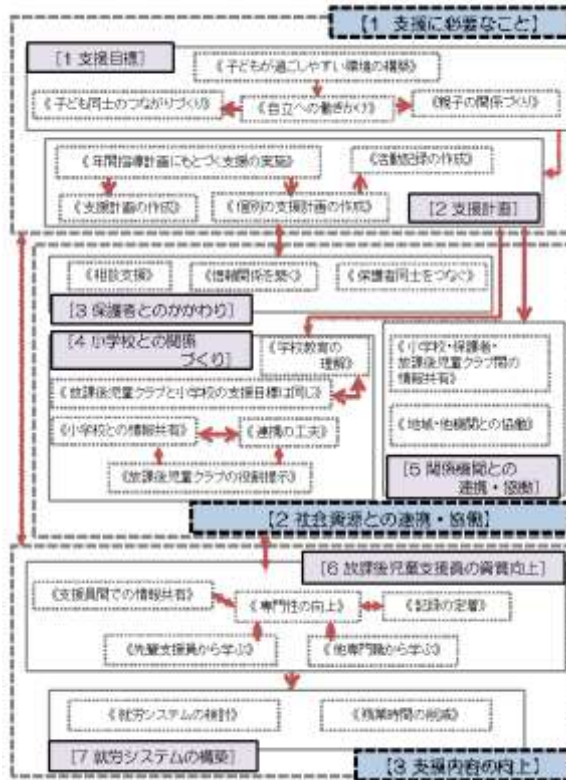
3. 研究分析・結果

分析は、半構造化面接に有効である M-GTA (Modified grounded theory approach) を用いた。分析において、10人目の回答を概念化した後、11人目以降も検討していったが、新たな概念の生成ができなかったことから、飽和化したと判断した。

インタビュー内容を念化すると、25《概念》、7 [サブカテゴリー]、3【カテゴリー】が抽出された。それらを図解化したものを示す。

25《概念》は、効果的な支援要素である。

【放課後児童クラブにおける支援の図解化】



* 矢印は関連を示す

5. まとめ

放課後児童クラブは、福祉の視点から、子ども支援と子育て支援を行うところである。支援機関としては学校や家庭に一番近い存在であり、学校や家庭との連携や協働を図るための、専門性を高めていくことが求められる。今回の研究では、放課後児童クラブの専門性を明確にした支援目標や支援計画を作成することが子どもの自立への働きかけにつながることも示唆された。また、子どもの抱える様々な課題に対し、チーム支援の一員として、連携や協働を行うための専門性の明確化、役割を確立することの重要性が明らかとなった。専門性の向上を図るためには、子どもにとって大切な学校教育や家庭の理解はもちろんのこと、他機関の理解、すなわち子ども支援者の役割を理解することが、放課後児童クラブの専門性を明らか

にすることにつながる。また、連携、協働に必要な支援記録の定着により、支援を可視化することで、支援の共有を図るだけでなく、支援の質の向上に影響を与える。

今後は、本研究で明らかとなった放課後児童クラブの課題である専門性や連携の向上を目的として、支援員とともにラボを立ち上げ、研究を進展させる予定である。

成果資料目録

「岡山県放課後児童クラブにおける支援に関する研究」 冊子作成